

気管チューブ至適留置位置の検討

1. 研究の対象

2019年1月～2019年12月に、当院で胃・大腸手術を全身麻酔で受けられた方々

2. 研究目的・方法

気管挿管は蘇生や麻酔中に行われる処置である。従来、気管チューブを何cmで留置するかについては、性別や身長を参考に経験的に判断されてきた。処置後、胸部X線撮影後に思いのほか深かったり浅かったりすることがあることから、留置位置を事前に予測できれば、安全性が向上すると考えられる。本研究は、非侵襲的に気管チューブ至適留置位置を予測するための方法を構築することを目的とする。

術前後に撮影した胸部X線写真において、第5 or 6 or 7頸椎から気管分岐部までの長さを測定する。それらと身長などの要素が、気道の長さ（口角から気管分岐部までの長さ）とより良く相関するかを検討する。気道の長さは、麻酔記録に記載された気管チューブ留置深と、術直後に手術室で撮影した胸部X線写真の気管チューブから気管分岐部までの長さを加算したものと定義する。

研究期間：

学校長承認後～令和5年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

手術中の麻酔記録、手術前後に撮影した胸部X線写真画像

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方（患者さんが未成年の場合には親権者もしくは保護者）にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

資料 3

所属・職名 防衛医科大学校病院手術部（麻醉科）講師
研究責任者 高橋 哲也
連絡先 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3 - 2
防衛医科大学校麻醉学講座
04-2995-1511（代表）
04-2995-1692（直通）